

奈良県立大学におけるカリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

奈良県立大学では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げた人材を育成するにあたって、個々の学生が主体的に学修に取り組むことを重視します。そのため、「少人数対話型教育」を核とした本学独自の「学習コモンズ制」を設定し、すべての学年において、少人数ゼミと講義及びフィールドワークを有機的に結びつけて教育します。

【初年次教育】

初年次教育では、大学における主体的な学修のための知的基礎を涵養します。大学での学び方が高校までとは異なることを理解させ、大学での学びの方法を習得させます。リベラルアーツ科目において諸学の基礎を提供し、基礎ゼミにおいて自主的に学ぶことの重要性を体感させ、4年間の学びの全体像をイメージした「学びの設計書」を作成してもらいます。

【語学教育】

少人数のクラス編成を行い、専門性の高い科目も設定します。交換留学や長期休暇を利用した海外語学研修などを通して、より高い語学能力の育成を図ります。

【コモンズゼミ】

2～4年次のコモンズゼミでは、学生が教員の指導、助言を受けながら、自ら設定した特定テーマに関する調査、分析、報告、討論を個人ないしグループ単位で行います。能動的な学びの機会を提供し、理論と実践の両面から課題に取り組ませるなど、多面的な学びを促します。

【フィールドワーク】

フィールドワークでは、学生が国内外を問わず地域の人びとと積極的に関わり、自ら課題を発見し、計画を立案し、独自調査を通じて、課題の解決に取り組むよう指導します。フィールドワークは必修科目として行われるほか、各学年のゼミにおいて適宜実施されます。

【コモンズ講義科目】

各コモンズの対象領域を系統的に学ぶために、学年進行に即して、基礎から専門にいたる講義科目を編成し、ゼミやフィールドワークと連動した有機的な学びを提供します。

【卒業研究】

上記の学びのプロセスを経て、最終年次に学生は、多様な学問分野で学んだ幅広い知見と視点を統合し、主体的に卒業研究に取り組みます。